北海道ファシリティマネジメント協会 × 隈研吾さっぽろ未来まちづくり懇話会

特別座談会 さっぽろの未来まちづくり

～手稲区・地下鉄延伸～
～丘珠空港機能強化～
～人材流失阻止～

まちの再開発が加速している。札幌が未来永劫に輝くためには、ハード・ソフト両面での再開発・整備が肝要と言えるが、さまざまな課題も。本欄では北海道ファシリティマネジメント協会（FM協会）と、隈研吾さっぽろ未来まちづくり懇話会の共催で行われた〝さっぽろの未来まちづくり〟をテーマとした座談会を掲載する。

（収録・2月4日、ニューオータニイン札幌にて）

手稲区まで地下鉄延伸を

藤﨑　以前は年に一度こうした座談会を開催しておりましたが、今回は3年ぶりの開催となります。テーマは『さっぽろの未来まちづくり』。今回も各界の方々に参加いただきました。まずは町田副市長から札幌市としての考え、提言を。

町田　札幌市は昨年、市制施行100年を迎えました。これまで札幌の人口は一貫して増加し、現在では〝200万都市〟にまで成長しています。

ですが、この先は減少に転じることになる。生産年齢人口が減少し、高齢者が増加するわけです。こうした状況から札幌市は今後、人口の減少を緩和しつつ、超高齢化社会に対応したまちづくりを展開しなければなりません。

現在描いている都市像は、『「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ』ですが、これにはユニバーサル（共生）、ウェルネス（健康）、スマート（快適・先端）といった重要概念を設定し、実現に向け取り組んでいるところです。

再開発事業も着実に進んでいます。構想のなかには北海道電力や中央バスがある大通東1エリア、札幌パークホテルの南10条西3エリアなどがとりわけ大きなプランとして進行中で、さらに、木質バイオマスなどの再エネを利用した熱供給ネットワークも構築されつつあります。〝環境首都・札幌〟にふさわしいまちづくりを実践しているところです。

藤﨑　では、国交省出身の岡部さんに、国という目線で見た札幌のまちづくりについて。

岡部　現在、国の北海道総合開発計画は〝食と観光〟を柱に展開しています。今般のウクライナ侵攻や、コロナ禍によって苦戦してはいるものの、「食と観光、そして北方の自然を軸として将来像を描いていく――」この基調はこの先も変わらないと思います。

こうしたなか、昨年世界の人口が80億人を突破しました。とりわけアジアの人口が増加、それに伴い経済も成長している。日本、北海道の安定した発展は、こうした成長を遂げるアジアの国々をどう取り込んでいくのか――、ここがポイントでしょう。それには北海道の食と観光が持つ高いポテンシャルをもっと世界に発信するべきで、そこで重要となってくるのが札幌の役割です。札幌が軸となって人流・物流や情報発信を充実させ、〝より付加価値をつけたサービスを提供するまち〟に成長させなければならない。

今まさに議論されている丘珠空港の滑走路延長をはじめとするインフラ整備のみならず、情報インフラ、金融インフラのさらなる充実が進めば、札幌は国内有数の〝稼ぐ都市〟に生まれ変わるはずです。

藤﨑　国という目線から次は区という狭めた視点でご発言いただきたいと思いますが、手稲区は地下鉄延伸を目指す期成会が発足されるなど、交通インフラの整備が期待されていますね。

松井　手稲区にフォーカスしてお話させていただくと、ご承知の通り、手稲区は旧手稲町です。1967年に札幌市と合併して生まれた区ですが、当時は人口約3万人で、現在は約14万人にまで増加している。人口減少が進む中で、手稲は増加しているんです。私はこうした地区のインフラ整備こそ喫緊の課題と捉えています。とりわけ交通インフラ、なかでも藤﨑さんから今ありました〝地下鉄の延伸〟はまちづくりにおいて極めて重要です。もとより簡単な話ではありませんが、国が掲げる「デジタル田園都市国家構想」によって今強力な〝追い風〟が吹いていることは間違いない。

この構想は、「首都圏の人口を地方に移し、その地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図る――」簡潔に言えばこういうものですが、

FM協会専務理事
隈研吾さっぽろ未来まちづくり懇話会会長
藤﨑 昌甫氏

FM協会会長
生島 典明氏

札幌市副市長
町田 隆敏氏

札幌市議会議員
FMマネージャー
松井 隆文氏

隈研吾建築都市設計事務所
設計室長
田口 誉氏

檜森企画代表
檜森 聖一氏

北海道河川財団会長
FM協会副会長
岡部 和憲氏

隈研吾さっぽろ未来まちづくり懇話会青年部会長
日興美装工業常務取締役
FMマネージャー
櫻井 遊氏

続きは『月刊クォリティ』本誌をご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
https://qualitynet.co.jp/koudoku/

○お電話でのお申し込みはこちらから
TEL 011-644-0101
（9:00 ～ 17:30　土日・祝日をのぞく）